



2023年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 BEENOS株式会社

上場取引所 東

コード番号 3328 URL <https://www.beenos.com>

代表者 (役職名) 代表取締役 執行役員社長 (氏名) 直井 聖太

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 松田 久典

TEL 03-6859-3328

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第1四半期の連結業績(2022年10月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第1四半期	6,975	2.3	764	830.3	588		398	
2022年9月期第1四半期	6,816	8.6	82	76.2	36	88.3	18	

(注) 包括利益 2023年9月期第1四半期 4,808百万円 (%) 2022年9月期第1四半期 131百万円 (53.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第1四半期	32.28	30.45
2022年9月期第1四半期	1.43	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年9月期第1四半期	26,082	12,975	49.0	1,031.30
2022年9月期	33,909	18,001	52.5	1,443.65

(参考) 自己資本 2023年9月期第1四半期 12,775百万円 2022年9月期 17,803百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期		0.00		25.00	25.00
2023年9月期					
2023年9月期(予想)					

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

(注) 2. 2023年9月期の配当金につきましては現在未定です。

3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)									
通期	33,120	11.0	4,500		4,200		2,580		209.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

詳細は、P5(3)「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年9月期1Q	13,335,995 株	2022年9月期	13,335,995 株
期末自己株式数	2023年9月期1Q	948,579 株	2022年9月期	1,003,874 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年9月期1Q	12,351,316 株	2022年9月期1Q	12,723,753 株

(注)信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship)の導入により、期末自己株式数には、BEENOS従業員持株会専用信託が保有する当社株式を含めております(2023年9月期1Q 48,700株、2022年9月期 58,800株)。また、同信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、テクノロジーの力とこれまでに培ったグローバルコマースの知見をいかし、人・モノ・情報とグローバルコマース市場を繋ぎ、新しい常識や可能性を提供し続ける「グローバルプラットフォーマー」を目指しております。

今期は中期の目標である連結流通総額1,000億円の達成に向け、各事業領域において「グローバルコマース部門：配送プランや決済手段を中心としたBuyeeサービスの改善、マーケティングの強化」、「バリューサイクル部門：高単価商品の買取と国内販売の強化」、「エンターテインメント部門：エンタメ業界向けECプラットフォーム『Groobee（グルービー）』の導入企業と利用者数の増加による流通拡大」をそれぞれ目指しております。

当第1四半期連結累計期間においては、Eコマース事業においては、グローバルコマース部門は、積極的なキャンペーンの実施等により流通総額の増加を図り、バリューサイクル部門は、海外販売の継続的な成長と国内販売の強化に努めました。また、エンターテインメント部門は、Groobeeでの新規取扱アーティストの獲得に注力し流通総額の増加を狙いました。インキュベーション事業においては、営業投資有価証券の売却を行い投資回収を進めました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,975百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益は764百万円（前年同期比830.3%増）、経常利益は588百万円（前年同期は経常利益36百万円）親会社株主に帰属する四半期純利益は398百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失18百万円）となりました。

当社が経営指標として重視している流通総額（国内外における商品流通額）につきましては、当第1四半期連結累計期間で228億円（前年同期比24.4%増）となりました。

当第1四半期末における営業投資有価証券の簿価は68億円（前期末における簿価は128億円）、当第1四半期末における時価評価額※は225億円（前期末における時価評価額は300億円）となり、上場銘柄の株価変動及び為替変動により、簿価及び時価評価額が減少しました。

※営業投資有価証券の算定根拠についてはセグメント別業績の②インキュベーション事業をご参照下さい。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

①Eコマース事業

i) グローバルコマース

「海外転送・購入サポート事業（FROM JAPAN）」におきましては、Buyeeの手数料体系の見直しを実施したことや、従来からBuyeeに導入していた独自の安価な物流手段を、海外転送サービス（転送コム）にも「転送コム空運台湾」として台湾向けに提供を開始したこと、さらに、既存のECサイトにタグ設置のみで海外販売を可能にする、越境購入サポートサービス「Buyee Connect」が当第1四半期に、シュッピン株式会社のECサイトに導入されたことなどにより、2022年12月には当社の越境EC支援実績が累計4,000件を突破し、順調に流通が増加しました。

「グローバルショッピング事業（TO JAPAN）」におきましては、食品・飲料のカテゴリの追加など取扱商品の拡大により流通の増加を図りました。また前期から当第1四半期の前半までは、為替が円安傾向であったことが影響し、内外価格差を利用の主目的としていたユーザーの需要が低下している状況が続いていましたが、当第1四半期の後半からは、為替が相対的に円高方向にシフトしたため受注の回復がみられました。

なお、今期より「ファッション特化型越境ECサービス運営事業（FASBEE）」をインキュベーション事業セグメントから本セグメントに変更しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,002百万円（前年同期比28.5%増）、営業利益は1,021百万円（前年同期比44.8%増）となりました。

ii) バリューサイクル

「ブランド・アパレル買取販売事業」におきましては、販売面では、前第4四半期の売上増加に伴う在庫の減少に加え、前期に実施した人員削減による出品作業へのリソース不足が影響し出品数が一時的に大きく減少したことで、売上が前年同期比で減少しました。買取面では、ハイブランド商品など高価格帯商品の取扱いを強化するため買取専門店「ブランディア」の出店を進めており、2022年10月に「神戸元町店」、11月に「銀座店」をオープンし国内13店舗となりました。また、オンライン査定サービスの「ブランディアBe11」では、プライバシーに配慮して

顔や背景を隠せる機能をリリースするなど、利用のハードルを下げ、使いやすさの向上を図りました。

「酒類の買取販売事業」におきましては、販売面では、買取ボリュームの大きいジャパニーズウィスキーやワインなどで高額品が人気になるなど、売上高が増加しました。また、元サッカー日本代表監督フィリップ・トルシエ氏が手がけるワイナリー“La Belle Gabrielle”（ラ・ベル・ガブリエル）の日本公式ブランドサイトをローンチし、ECでの販売を開始しました。買取面では酒類の資産管理・査定相場情報アプリ「MyCellar」のキャンペーンを実施し、登録ユーザー数、資産金額が共にキャンペーン期間前と比べ倍増する効果を上げました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,311百万円（前年同期比9.4%減）、営業利益は13百万円（前年同期は営業損失122百万円）となりました。

iii) エンターテインメント

「エンターテインメント事業」におきましては、イベントの収容人数や声出しの制限が緩和されるなど市場環境が改善いたしました。また、当社の取り扱うアーティストの大型イベントの開催が無かったことから、グッズやCDなどの販売が減少しました。また、今期より主要な取扱アーティストの商品販売形態が受託販売となったことに伴い、売上高の計上が、これまでの商品代金から受託手数料へと変更となっております。

「グローバルプロダクト事業」におきましては、自社コスメブランド「Lovisia」において、“ちいかわ”や“ポケモン”、“星のカービィ”など、国内外で人気のあるコンテンツとのコラボレーション商品が人気となり、コスメシリーズの累計出荷数が193万個となるなど流通が拡大しました。

また、今期よりインキュベーション事業セグメントから本セグメントに変更した「エンターテインメント領域のDX支援事業」では、エンターテインメント業界向けECプラットフォーム「Groobee（グルービー）」で、映画“すずめの戸締り”の関連グッズを販売する“すずめの椅子 段ボールクラフト”公式ショップの制作と運営サポートの開始や、アニメ・ゲーム等の公式グッズを販売する“EDITH ONLINE”にオンラインガチャ機能を導入するなど、Groobeeの利用企業が順調に増加しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は318百万円（前年同期比65.8%減※）、営業損失は39百万円（前年同期は営業損失35百万円※）となりました。※前期の数値は新しいセグメントに組み替えて比較しております。

Eコマース事業全体では、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,632百万円（前年同期比4.2%減）、営業利益は995百万円（前年同期比82.3%増）となりました。

②インキュベーション事業

インキュベーション事業におきましては、当社および当社の連結子会社が保有する営業投資有価証券の売却を行い2億円の売却益を計上しました。なお、上場銘柄の株価変動により含み益が減少しておりますが、従前より基本方針として掲げている、新規事業の先行投資費用と本社費用を相殺する利益を投資売却によって継続的に計上していく方針に変更はなく、今後も投資回収を進めてまいります。

また、前期までインキュベーション事業に含まれていた「事業として確立する前の新規事業」は、「その他事業」として別のセグメントとして開示しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は262百万円（前年同期比903.5%増）、営業利益は209百万円（前年同期は営業損失13百万円）となりました。

なお、当第1四半期末における営業投資有価証券の簿価は68億円（前期末における簿価は128億円）、当第1四半期末における時価評価額※は225億円（前期末における時価評価額は300億円）となり、上場銘柄の株価変動及び為替変動により、簿価及び時価評価額が減少しました。※営業投資有価証券の時価評価額は、上場銘柄は市場価格、未上場銘柄は直近の取引価格にて評価した金額です。（当社が投資損失引当金を計上している銘柄については簿価にて評価）当該金額は、当社の試算に基づく金額であり、監査法人の監査を受けておりません。

③その他事業

アジアの大手マーケットプレイスへの日本企業の出店を支援する「越境EC支援事業」につきましては、中国の大手プラットフォームとの連携プロジェクトが一時休止となったものの、引き続き“Shopee”や“Tmall Global”などの海外マーケットプレイスへの出店、カスタマーサポート、海外配送対応、決済対応など幅広いサービスをワン

ストップで提供し続けると同時に、新たなプラットフォーム提携も引き続き検討しております。

「インバウンド事業」においては、日本国内への入国制限撤廃によりインバウンド旅行者が増加することを見込んでおり、インバウンド旅行者向けの予約サービスの開発など各種サービスの拡大を進めております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は189百万円（前年同期比77.6%増）、営業損失は224百万円（前年同期は営業損失252百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①財政状態の分析

（i）資産

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比べ7,827百万円減少し、26,082百万円となりました。

内訳といたしましては、流動資産合計が22,116百万円となり、前連結会計年度末と比べ7,596百万円の減少となりました。その主な要因は、保有する上場株式の株価変動に伴う簿価の減少などによる営業投資有価証券の減少が6,067百万円、納税や配当の支払いなどによる現金及び預金の減少が2,991百万円であります。

また、固定資産合計は、3,965百万円となり、前連結会計年度末と比べ231百万円の減少となりました。その主な要因は、投資有価証券236百万円の減少であります。

（ii）負債

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比べ2,801百万円減少し、13,106百万円となりました。

内訳といたしましては、流動負債合計が11,816百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,598百万円の減少となりました。その主な要因は、預り金718百万円、未払金322百万円の減少であります。

また、固定負債合計は、1,289百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,203百万円の減少となりました。その主な要因は、繰延税金負債1,031百万円の減少であります。

（iii）純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末と比べ5,025百万円減少し、12,975百万円となりました。その主な要因は、有価証券評価差額金4,843百万円の減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年11月8日に決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。セグメント毎の内訳については下表のとおりです。

当社は今期よりセグメント区分の変更を行っております。前期実績につきましても、新セグメントに組み替えて表示しております。変更理由は「セグメント情報等」の項をご参照下さい。

	Eコマース事業			インキュベーション事業	その他事業	連結
	グローバルコマース	バリューサイクル	エンターテインメント			
流通総額	700億円	160億円	140億円	-	18億円	1,018億円
前期比	28.3%増	6.1%増	40.8%増	-	48.0%増	26.0%増
売上高	127.2億円	160.0億円	12.7億円	25.0億円	6.2億円	331.2億円
前期比	25.9%増	6.1%増	69.8%減	742.4%増	24.9%減	11.0%増
セグメント利益	40.0億円	4.0億円	1.0億円	21.5億円	▲10.0億円	45.0億円
前期比	20.9%増	100.3%増	-	-	-	1,269.3%増
(参考) 前期実績						
流通総額	545億円	150億円	99億円	-	12億円	807億円
売上高	101億円	150億円	42億円	2億円	8億円	298億円
セグメント利益	33.0億円	1.9億円	▲3.0億円	▲9.6億円	▲9.7億円	3.2億円

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,551	6,560
受取手形及び売掛金	911	675
営業投資有価証券	12,870	6,803
商品	2,225	2,615
未収入金	1,257	1,717
その他	2,912	3,762
貸倒引当金	△16	△18
流動資産合計	29,713	22,116
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	730	747
減価償却累計額	△394	△404
建物及び構築物(純額)	335	342
工具、器具及び備品	242	259
減価償却累計額	△172	△180
工具、器具及び備品(純額)	69	78
その他	38	38
減価償却累計額	△15	△15
その他(純額)	23	22
有形固定資産合計	428	443
無形固定資産		
のれん	160	133
その他	319	336
無形固定資産合計	479	469
投資その他の資産		
投資有価証券	2,741	2,505
繰延税金資産	54	65
その他	492	481
投資その他の資産合計	3,287	3,051
固定資産合計	4,196	3,965
資産合計	33,909	26,082

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	373	78
短期借入金	3,550	3,550
1年内返済予定の長期借入金	900	900
未払金	5,459	5,137
預り金	1,942	1,223
未払法人税等	277	175
その他	911	751
流動負債合計	13,415	11,816
固定負債		
長期借入金	1,048	873
繰延税金負債	1,210	179
資産除去債務	212	215
その他	22	22
固定負債合計	2,493	1,289
負債合計	15,908	13,106
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,775	2,775
資本剰余金	3,925	3,891
利益剰余金	5,367	5,456
自己株式	△2,107	△1,981
株主資本合計	9,962	10,141
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,620	1,777
為替換算調整勘定	1,220	856
その他の包括利益累計額合計	7,841	2,633
新株予約権	198	200
純資産合計	18,001	12,975
負債純資産合計	33,909	26,082

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2021年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2022年12月31日)
売上高	6,816	6,975
売上原価	3,863	3,460
売上総利益	2,953	3,514
販売費及び一般管理費	2,871	2,750
営業利益	82	764
営業外収益		
受取利息	1	1
助成金収入	1	—
投資事業組合運用益	15	—
受取保証料	4	4
その他	15	8
営業外収益合計	37	14
営業外費用		
支払利息	3	4
持分法による投資損失	60	42
為替差損	14	142
支払手数料	2	0
投資事業組合運用損	—	1
その他	2	0
営業外費用合計	83	190
経常利益	36	588
特別利益		
新株予約権戻入益	1	2
特別利益合計	1	2
税金等調整前四半期純利益	38	591
法人税、住民税及び事業税	51	201
法人税等調整額	4	△9
法人税等合計	56	192
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18	398
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△18	398

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18	398
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	△4,843
為替換算調整勘定	134	△348
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△15
その他の包括利益合計	149	△5,207
四半期包括利益	131	△4,808
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	131	△4,808
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 2
	Eコマース事業				インキュ ベーション 事業	その他事 業	合計		
	グローバ ルコマー ス	バリュー サイクル	エンター テインメ ント	小計					
売上高									
顧客との契 約から生じ る収益	2,329	3,485	929	6,745	26	45	6,816	—	6,816
外部顧客へ の売上高	2,329	3,485	929	6,745	26	45	6,816	—	6,816
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	6	168	—	174	—	61	236	△236	—
計	2,336	3,653	929	6,919	26	106	7,052	△236	6,816
セグメント利 益又は損失 (△)	705	△122	△35	546	△13	△252	280	△197	82

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△197百万円には、セグメント間取引の消去△106百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益190百万円及び全社費用△282百万円が含まれております。全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの受取手数料であります。全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年10月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	Eコマース事業				インキュ ベーション 事業	その他事 業	合計		
	グローバ ルコマー ス	バリュー サイクル	エンター テインメ ント	小計					
売上高									
顧客との契 約から生じ る収益	2,994	3,289	318	6,601	—	110	6,712	—	6,712
その他の収 益(注) 1	—	—	—	—	262	—	262	—	262
外部顧客へ の売上高	2,994	3,289	318	6,601	262	110	6,975	—	6,975
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	7	22	0	30	—	78	109	△109	—
計	3,002	3,311	318	6,632	262	189	7,084	△109	6,975
セグメント利 益又は損失 (△)	1,021	13	△39	995	209	△224	980	△216	764

(注) 1. その他の収益には、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)に基づく営業投資有価証券に関する収益が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△216百万円には、セグメント間取引の消去△13百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益84百万円及び全社費用△288百万円が含まれております。全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの受取手数料及び配当であります。全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、事業領域別にセグメントを構成し、『Eコマース事業』及び『インキュベーション事業』の2つを報告セグメントとしております。

このうち『インキュベーション事業』には「投資育成事業」と「事業として確立する前の新規事業」の2つが含まれておりましたが、それぞれの事業の連結業績に与える影響額が大きくなってきたこと、それぞれの損益を明確に区分することで当社の損益の状況をよりわかりやすく表示することができると判断したため、『インキュベーション事業』から「事業として確立する前の新規事業」をそれぞれ別のセグメントとして開示することといたしました。

「投資育成事業」は従来通り『インキュベーション事業』とし、「事業として確立する前の新規事業」については、それぞれの事業規模を勘案し『その他事業』として開示しております。

また、これまで「事業として確立する前の新規事業」として『インキュベーション事業』に含まれていた「ファッション特化型越境EC事業(FASBEE)」と「エンターテインメント向けECプラットフォーム事業(Groobee)」の事業化の目処がたったため、それぞれ『Eコマース事業』の「グローバルコマース」と「エンターテインメント」に含めて開示することといたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。